

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地区	田島 地区		市長・副市長の出席 市長・副市長
日時	平成 30 年 7 月 12 日 (木) 19:00～20:30		場所 田島二丁目公民館
地区参加者	高倉田島町自治会長（地区理事）、遠藤田島 1 丁目自治会長、 宮崎田島 2 丁目自治会長、伊藤田島 3 丁目自治会長、 酒井田島本町自治会長		計 39 名
担当グループ	リーダー	山中 企画振興部長	副リーダー 新原 防災・危機管理課長
	プレゼンター	橋本 農業振興課長	連絡調整担当 吉松 廃棄物処理施設建設推進室長
	書記	原田 淡窓図書館長、竹尾 人権・同和対策課長	
	構成員	安養寺 東有田振興センター長、佐々木 五和振興センター長	
	その他		
議題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		橋本 農業振興課長
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		橋本 農業振興課長

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(質問)

- ・ 田島地区の「土砂災害警戒区域」を具体的に聞きたい。

(回答) ホワイトボード貼付けの図面を指しながら、

- | | |
|-----------------------|------------------|
| ①大原（法務局近く）の山。ここは急傾斜地、 | ⑤城内新町 1 箇所、 |
| ②弓道場の奥、 | ⑥久津トンネル、 |
| ③奥村病院付近 1 箇所 崖地、 | ⑦神来の諫山事務所（倉庫）近く。 |
| ④総合運動公園近く 1 箇所、 | |

この図面を自治会長宅に訪問し、説明したいと考えており、現在、市内周辺部から回っている。

(質問)

- ・ 浸水被害のハザードマップは、どのようになっているか聞きたい。

(回答)

- ・内水（ハザードマップ）は全戸に配布した。国や県の浸水区域、ハザードマップは作成しており、インターネットやホームページで公開している。

(質問)

- ・大原グラウンドの西側に水路（旧給食センター付近から藤蔭高校大原寮付近に流れる水路）があり、雨が降ると増水し家の中に入ってくる。5年前から毎年相談しているが何ら進展がない。理由を聞きたい。
台風や水害などによる水を食い止める対策をお願いしたい。

(回答)

- ・大原グラウンドに一時貯留槽（3,000 t）の設計をしている。できる限りのことはしているが、限度を超えてしまえば機能しない。

(質問)

- ・大原神社入口で排水工事をしていたが、その工事により水の流れが変わったのか。

(回答)

- ・今年度工事であり、完成していないのでわからない。なお、奥村病院の上流側は工事ができていない。

(質問)

- ・弓道場裏の急傾斜地の工事はどのようになっているか。

(回答)

- ・現在、災害復旧工事を優先しており、業者が手一杯の状況である。今年度の工事であるため、担当課に伝えたい。

(質問)

- ・本日のテーマから「リスク管理」が大きいと思う。水のことについて地元はわかっているが、市がわかっているのかが私たちにはわからない。具体的にどのように改善していくのか説明をお願いしたい。

(回答)

- ・平成 24 年から昨年まで大きな災害を経験し、現在、復興に向けた取り組みを行っている。

個々の災害箇所については、市への情報提供や自治会を通しての要望などで対応しているが、地域の危険な場所や課題については、その都度、市に連絡をいただきたい。

(質問) 昨年の九州北部豪雨による大原通りの冠水状況の映像をスライドに投影しながら、

- ・平成 24 年に 2 回、昨年は 4 回家に水が入った。この映像から、小ヶ瀬水路が溢れたのではない。3 方向から水が集まって、一気に（大原屋）前の道路を流れているものである。すべて雨水であり、泥水ではない。道路の排水をお願いしたい。

(回答)

- ・映像データをいただいて冠水の状況を担当課へ伝えたい。

(質問)

- ・避難訓練に、アパートやマンションの人たちが参加しない。アパート等の管理会社を通じて、自治会に協力するような協定はできないか。また、市から届いた要援護者台帳の中に、昼間は病院で、夜間のみ施設で生活している人がいる。自治会には加入していない。協力はしたいが、具体的には難しいと考えている。どうすればよいか教えてもらいたい。

(回答)

- ・アパートやマンション入居者については、宅建協会に話をしてみる。また、自治会と関わりがない要援護者の方を具体的に教えていただきたい。担当課に確認する。

(質問)

- ・災害時には警察や消防団を頼りにしているが、頼りっぱなしではいけない。そこで防災士を中心に地域を守るような組織を検討してはどうかと考える。

(回答)

- ・是非、自治会長さん方で話をしてもらいたい。まず、地区の防災士だけで話をする機会を設けることから始めてみるのはどうか。

(質問)

- ・「防災訓練」と「防災教育」の違いを伺いたい。

(回答)

- ・防災訓練は、子どもから大人まで対象者は様々で、避難訓練や消火訓練等さまざまな内容が考えられる。また、防災教育は児童生徒の生きる力をはぐくむ学校での教育であると考えている。いずれも防災・減災において非常に重要であり、防災教育にも力を入れたい。

(質問)

- ・大きな地震が発生した場合の自衛隊や赤十字、NPOなど援助団体の受入拠点はどこで、受け入れ体制はできているのか。

(回答)

- ・サンヒルズが警察、総合体育館が緊急消防援助隊。要請が来ているNPOは社会福祉協議会が新たなボランティアセンターなどの話を進めている。

(意見)

- ・避難する際に飲料水や食料等を準備することは当然と思うが、指定避難所であれば、最低限のもの（水や食料等）は準備してもらえればありがたい。親切な対応が安心感を生むと思う。